

稲門英語会だより

第 19 号
平成 23 年
11 月 1 日

受け継がれる W.E.S.S.の意思

第117代幹事長
森 琳太郎



稲門英語会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。第117号早稲田大学英语会幹事長の森と申します。早稲田大学有数の歴史ある会である早稲田大学英语会も、今年で119年目を迎え、会員数総勢236人という大所帯となりました。学生会館に足を運べば今日も元気な英語会員が笑顔で活動しております。さて、今回はこの場をお借りして誠に僣越ながら今年度W.E.S.S.の活動報告をさせていただきます。現在のW.E.S.S.のシステムについて説明致します。現在W.E.S.S.では1、2年度の所属するHome Meetingと3年度の所属するSectionとで構成されており、Home Meetingは秋葉原・城北・高円寺・目白・渋谷新宿の5つに分

かれSpeech・Debate・Drama・Oral Communicationの4つの活動に勤んでおります。3年会はOral Communication Sectionを有志の兼任制としながら、上記の活動いずれかのSectionに所属し特化した活動を行っております。今年度は特に、Oral Communication活動の中でより実践的な英語力の獲得を目指し、Discussionの要素を織り交ぜたゲームを行うなど、できる限り英語で会話することを意識した活動にしようという工夫を凝らしております。

★活動報告

次に、各Sectionの活動報告に移らせていただきます。今年度も例年に負けず劣らず、優秀な成績を残しております。Speech Sectionでは第14回金子杯に権容輝が出場し、3位に入賞。第2回神戸外大杯争奪英語弁論大会ではSpeech Section Chiefの篠原陽子が出場し3位入賞。篠原はその他にも大木杯争奪全日本大学生英語弁論大会に出場し優勝。また、第42回下関市立大学英语弁論大会に権と共に出場し、篠原が優勝、権が3位という輝かしい結果を残しました。また、Debate SectionはKAEDEにて団体優勝、個人ではChiefの永井智が3位入賞。JNDTにて団体準優勝。EAST-WESTでは団体3位、個人では永井が3位を取めました。また、全日本討論協会

懸命についてきてくれました。私は、W.E.S.S.がこれまで119年間灯を絶やすことなく続いてこられたのは、W.E.S.S.に宿る魂、ちよつとやそつとの事ではへこたれないW.E.S.S.根性を持った会員の努力があったからこそなのだと、そう感じました。W.E.S.S.の中でも少なからず被害に遭われた会員がいます。そのようなつらい状況の中でも、だからこそ、それぞれが「今」自分の頑張れることに精一杯になっていました。私はそんな今年の会員を誇りに思います。そして、119年目の執行学年として、伝統を壊すことなく120年目にバトンを渡すことができることを光榮に思います。楽しい事、つらい事、感動、挫折、涙、様々な感情を共有し、それでも前に進み続けるこのW.E.S.S.の榮光を、これからも大切に継承していきたいと思えます。最後に、W.E.S.S.会員一同、この度の東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

★大震災の影響

今年度は特に、3月に起こった東日本大震災の影響により大学の授業開始が大幅に遅れ、新入生歓迎活動期間から全ての日程を当初の予定よりずらす事となり大変苦労いたしました。特に4活動の活動期間の確保や、直前の日程変更がありSpeechやDramaの会場探しに苦心し、例年より遠方の会館を使用することとなり、会員の負担にもなってしまうました。そんな中でも、3年会一丸となり助け合うことで普段と変わらない活動がこなすことができ、また始ビインターバルのない活動期間の中でも1、2年会は一生懸命についてきてくれました。

英語と映画

中瀬 正一



今昔と違ってテレビやDVDの様な便利な物が普及している時代ですが、戦前・戦後の世代の我々に取って映画は最大の娯楽であり、英語を勉強する為の大切な手段でも有りました。父の仕事の関係で5歳から12歳迄サンフランシスコで育った

私に取って、毎週土曜日は映画を見る為に映画館へ出掛けるのが日課でした。初めは父に連れられて映画館へ行き、ポップコーンを食べながら映画を楽しむ、小学校に入学してからは土曜日の午後、弟を連れて近所の映画館に出掛けて行きました。おそろしく早く我々が英語になじむ為の父が考えた手段だったのかも知れません。父が好きでミュージカル映画を見る機会が多く、日本に戻ってから英語の勉強を兼ねてアメリカ映画を見るのが楽しみでした。或るとき父に連れられて無声映画を専門に上映する映画館に行き、映画が終わってから楽屋に回って弁士の松井翠声さんに会った事が有りました。後で知ったのですが、松井さんの本名は五百井清栄で中島正信先生と英語会同期の大正15年早稲田卒業で、英語発音学の勉強から英語の翻訳・解説更には弁士迄やるようになったとの事でした。無声映画全盛時代の活弁(活動写真弁士)はインテリの仕事で、徳川夢声や松井翠声は弁士として大変人気がありました。戦後NHKのラジオ番組で内海トツパと松井翠声のコンビが大ヒットした時期が有った事をご存じの方も、今は少なくなりました。昭和18年、私が早稲田第二高等学院に入学した頃、英語会でレッスンを受けておられた野口先生もアメリカ映画の解説で有名でアメリカ映画のシナリオを英語と日本語の対訳で本を出しておられたので、我々は古本屋でそれを買って一所懸命英語を勉強しました。1945年、終戦と共にアメリカ映画の輸入が再開された頃、英語を勉強する我々に取

て生きた英語が聞けるのでこれほどうれしい事は有りませんでした。朝早く映画館に弁当持参で行き、同じ映画を何回も見たものです。前の席の客の頭で日本語字幕が見えない様にして英語を一所懸命に聞き、新しい表現を手帳に書き込んで機会があればそれを使つて得意になったものでした。

一時期ミュージカル映画全盛時代が有りましたが、普通の劇映画でも観客に与える効果をねらって有名な作曲家達に主題曲を作らせて画面と共に流して雰囲気を一層盛り上げる手段、今でも使われています。当時の映画の事を思い出すと、出演俳優達の顔と一緒に主題曲が自然と頭に浮かんでくるのはアメリカ・スタンダード・ジャズが大好きな私だけなのではないでしょうか。1942年作「Casablanca」の「Love Is A Many Splendored Thing」1961年作「ティファニーで朝食を」の「Moon River」等の曲を聞くと主演俳優達の顔や台詞が今でも頭に浮かんで来ます。(昭和24年卒)

朝河貫一からのメッセージ

山内 晴子



歴史学者朝河貫一からのメッセージ。昭和19年に生まれ、父が海軍出身の為、高校時代からなせ日本は太平洋戦争を戦ったのか、2度とその道を辿らない為に日本人はどうしたらよいかと考

え、早大社会学の卒論に「日本ナショナリズムの展開と精神構造」を書きました。朝河貫一(1873-1948)との出会いは、玉川聖学院バートン院長の「ミレニアム記念に先生方もチャレンジして下さい」との一言で入学した東洋英和女学院大学院です。早稲田にこのようなグローバルな視点をもつ先輩がいたのかと驚き、山岡道男早大教授から「エル大学所蔵朝河貫一文書」46巻を見せて頂きました。2008年に早稲田で博士論文「朝河貫一論」その学問形成と実践」を執筆し、幸運にも創立125周年記念の早稲田大学学術叢書として早大出版部より昨年出版されました。2009年「モノグラフ」出版の際には、ESS同期の小泉陽子(リャンピン)さんが、500頁以上もの原稿を校正してくださり、とても感謝しています。

日米戦争は免れず必ず負けると警告します。

「文明最高の思想」は、タッカー学長から体得した「民主主義」です。国家至上主義ではなく個人相互の敬愛と信頼を重んじ、寛容な精神と神の前の平等は多様性を奨励し、反対の論も「平気」に淡白に面と向って説くことができる「批判精神、他人の成功を喜ぶ度量の広さとユーモアを忘れない「民主主義」でした。この「民主主義」を外交理念とし、日欧米の知識人に書簡を通して提言を続けました。

私は、占領軍が天皇制民主主義を選択した背景に朝河の戦後構想があるのではないかと考えました。その結論は「大化改新」や「人來文書」等の中の天皇制度に関する学説と、理想とする「民主主義」との共存という一見矛盾した異文化融合の戦後構想でした。民主主義国に再生する為、明治憲法の欠陥により政治を掌握した軍部を追い出せるのは天皇の聖旨のみだのということです。

イェール大学には講師就任百年記念に「朝河ガーデン」が造られ、「Historian, Curator, and Peace Advocate」と刻まれています。「民主主義」に背を向け軍国主義や全体主義を受け入れる危険性は何時の時代にも潜んでいます。学問的実績を基に外交提言を続けた朝河貫一の生涯は、日本人に勇気と指針を与えてくれるのではないのでしょうか。

震災後、朝河家の菩提寺「真行寺」佐々木道昇住職(早大出身・朝河研究会会員)は身元不明のご遺体にお経を上げ、息子さんは避難所でお風呂を沸かす

毎日だったそうです。朝河研究会(会長:山岡道男早大教授)は、早大19号館で年に数回あり、福島のことを心にかけてながら研究を続けております。【写真:福島県立図書館蔵・複写・山内正樹】(昭和41年卒)

同窓会だより

喜寿を迎える

塩見 健三

全員、今年が喜寿年齢で、やはり加齢によるあれこれ、なかなか集まる機会が作れません。そんな中、鬼籍入りや重病の友人の話が伝わり、余計に加齢が身にしみえます。名簿上は、在籍者26名で、逝去/4名、不明/1名にて、現存把握率80%は良い方でしょうか? 5年、10年後は果たしてどうなっているかですが...

先の大震災で「宮古在の菊池さん(旧姓・金子)の安否」を気に使いましたが、無事を確認しました。元気にやっていますよとの便りが一番の救いになる昨今です。(昭和32年卒)

男の趣味 (ゴルフから包丁へ)

川村 泰道

同期の近況は病気の話題が多く、恐縮乍、私の老後の過ごし方を紹介させて頂きます。

心臓の手術後はゴルフの趣味から遠ざかっていましたが、2年前から料理に興味を更、台所を広く改造し3食私が賅っています。26歳からゴルフを始めたのに100を切れず、クラブに責任を押し付け、買ったクラブセットは数知れず、米国駐在

中には、安かったとはいえ日本では百万円近くしていたケニー・スミスのセットまで購入したのに、72歳でゴルフ引退まで100を切る事が出来ず、道具は今や「兵どもの夢の跡」です。

テレビや病院の待合室の女性誌を見ているうちに、昔会社の接待で食したレストランや小料理屋の味が懐かしく、見よう見まねで料理を始めました。ゴルフと同じく男は道具にこだわります。台所の改造から始まり、包丁は刺身・柳刃・出刃・菜切り・牛刀とプロ仕様の高級品を揃えて調理を楽しんでいます。味の方は家内が少しずつ太っていくので、スコアは100を切ったと自負しています。(昭和36年卒)

大震災とWESSの絆

児玉 士誠

東日本大震災から4日目の朝、宮古の佐香武彦君から待望の電話! あの大津波から九死に一生を得て、家族も家も奇跡的に無事だった。安堵! そして歓喜!

当初「大丈夫、自分は困っていない」と話す彼だったが、やがて全てを失った重茂、田老、山田地区などの親戚や多くの被災者のために、救援物資の受け入れを決断する。

タイガース同期を中心にしたWESSの絆、友情の支援の輪はあつという間に広がった。春夏物衣類からスニーカー類、お盆前の礼服の類に至るまで、想像を遙かに超えて殺到する段ボール箱に、佐香夫妻からは嬉しい悲鳴が上がり、家の中は足の踏み場も無くなるほどだったという。

丁寧な、きめ細かく仕分けされた品々は確実に被災者の一人一人に届けられ、それはもう、大変感謝された。一例だが、佐香君の友人で、老人ホームの施設長夫妻は、故郷田老町の46世帯、1団体にまで配布してくれたのだった。最後に佐香君から、「皆さんから頂いた温情は一生の宝です。有難うございました!」(昭和37年卒)

みんな元気な英稲会

大渡 肇

38年卒の我々、古希を過ぎてもゴルフ、テニス、ダンスとそれぞれ楽しんでいきます。50名のメンバーですが、猛暑の中7月27日青山のレストランで開いた英稲会には24名が参加しました。以下に各人の一筆報告をどうぞ。(順不同)

パップスポートに憩う

安斉 洋一

昭和42年卒のWESSの仲間である森 篤夫さんが今から36年前に、銀座の便利な場所に「パップスポート」を店開きされた。我々昭和39年卒の仲間(和龍会)もこれまでにしばしばパップトで旧交を温めることが出来た。

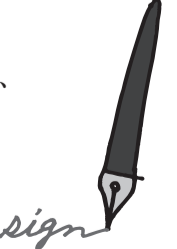
森さんの同期をはじめ、他の年次のWESS O.G.・O.Bでパップトを訪れた方々も多かったものと思われる。残念ながら9月28日で店がクローズされるというので、9月の初めに君和田君の呼びかけで、小原、関、安斉、田中久雄(昭和40年卒)



国際研修会 活動報告

平松 昌雄(昭和53年卒) 鈴木 順子(昭和54年卒)

本年2月17日に第48回として平成13年卒業ダイキャスト東和産業(株)取締役 富士原透吾様から「アジアと日本~国内中堅製造業経営の視点から」というタイトルで地方の製造業の生の声を聞くことが出来たと同時に初の平成卒業の講師として非常にフレッシュな意見をいただきました。7月8日には第49回として昭和38年卒業、日本蝶類学会会員の古谷俊爾様から「蝶に魅せられて」というテーマで学術的であると同時に地域振興を考慮した蝶類研究のお話を聞く機会を得ました。11月22日は、昭和38年卒業で元NHKチーフ・アナウンサーの田辺光宏様から「日墨(メキシコ)友好400年~遠くて近い国、メキシコ」を予定しております。2012年も3月、7月、11月の年3回、行なう予定です。毎回講師をお願いする人選には頭を悩ませています、卒業生の皆様、参加者と講師、よろしくお祈りいたします! 特に若い世代の方々の講師と参加をお待ちしております!【平松連絡先:masaoh@yahoo.co.jp】



案山子会 同期の訃報

田中 久雄

1月石塚勝彦君、4月佐藤潤君と今年に入り我が案山子会(40年卒)の仲間2人が相次いで逝去するという悲しい事態となりました。両君ともに今年70歳を迎える年齢だが、今や古希は古来稀なりの年齢ではなく、これから第二の人生を謳歌する年齢、ご両人の早すぎる旅立ちを偲び、6月23日、早稲田大学

の顔ぶれで、パップトに集い、森さんご夫妻も交えておしゃべりをした。閉店後森さんは、郷里の三重県津市でゆっくりと過ごされるとお聞きした。長い間ご苦労様でした。WESSサロンとしての場も提供して下さりありがとうございます。(昭和39年卒)

構内「西北の風」で偲ぶ会を開催した。この会には40年代卒の同期を始め、前後の先輩、後輩が多数参加ご両人の人徳の高さが改めて偲のべれた。石塚君は最後まで旅行関係会社顧問として活躍、私も海外出張に際しては石塚君に旅行日程の相談、航空券の手配等を必ず相談し、彼もこれら要請に真摯に対応してくれた貴重な存在でもあった。正月明けに仕事に復帰するといふ強い意志と希望を最後まで持つて病魔と闘っていた矢先の訃報であった。佐藤潤君は、マラソンに情熱を燃やし、フルマラソン走行距離日本一を目標とし、病を克服して再起をかけた。両君の強い意志とガッツに敬意を表するとともに改めてこの場を借り両君のご冥福を祈りたい(合掌)。(昭和40年卒)

稲門英語会2011年度会計報告

(自2010.10.01 至2011.09.30)

【単位：円】

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越金	145,482	早大英語会補助金	700,000
今年度収入合計	2,195,391	事務局費(10月~9月分)	378,000
年会費*	[2,167,000]	総会・忘年会案内費他	172,761
¥10,000×35名		総会・忘年会費補填金	27,903
¥8,000×2名		稲門英語会だより印刷代	84,000
¥5,000×359名		通信費	122,540
¥3,000×2名		SMBC自動振替諸費用	35,458
合計398名		郵便振替入金手数料	27,320
預金利息	[59]	封筒代	23,277
幹事会剰余金	[28,332]	宅急便代	1,060
		支出合計	1,572,319
		次年度繰越金	768,554
合計	2,340,873	合計	2,340,873

(*上記のほかに年会費の前受金が10,000円あります)

上記のとおりご報告申し上げます。

会計幹事 小倉 雅博(昭和50年卒)
平松 昌雄(昭和53年卒)



(昭和45卒)



第15回ナシの会
真崎 美那子

後の夫を家庭に迎えたり、人生の新しいフェーズに入った所。多くは親を見送ったばかりか看ながら、多種多様な趣味(21種拳がった)三昧(のはずだ)だが、一時手を止め考え、多分再開)。近況報告で多く聞かれたのが、3・11の体験談、一瞬に命が奪われる無常感、儂いだけに何気ない日常が貴重、日々大切に生きよう、戦争も関東大震災も直接経験せずこれから余程の大病でもしない限り安泰な人生を終えられると思っていた、何か東北の為にできる事をしたいと。実際に支援団体で活動を始めた人もいます。WESS仲間には益々大切な存在。地球の平穏無事を祈るばかりだ。

「夢の会」卒業40周年

岡田 俊雄

四大学英語劇に「アメリカンドリーム」を上演し、卒業後の団体名を「夢の会」とした。卒業後の我々の不確実な将来に大きな野望と壮大な挑戦を胸に秘めて。

あれから40年、卒業時44名いた精鋭は、物故者5名、海外生活2名、所在未確認4名の計11名が没交渉となっている。

「夢の会」の名称は卒業後早い段階で誰もが口にしなくなつた。大多数の人がいわゆる会社勤めのサラリーマンとなり、その社会の歯車となったためである。団塊の世代の先陣を切つて進みはしたが、残念ながら社会から注目を浴びるような大物は現れていない。

家庭を持ち、子供を育て、会社勤めを終了し、今まさに40年という時の流れをかみ締め、新たな夢を描き、再スタートをした人が多いのではないか。

現在、有志で卒業40周年の集まりを企画している。多くの人に参加していただき、大いに夢を語っていただければありがたい。叶わなかったことを含めて。(昭和46年卒)

WESSで得た大切なもの

佐藤 有

人生60年の区切りを迎え昔の仲間に出会う機会が多くなった。早稲田に通いとりわけWESSで得た仲間は最高だ！ところで、もう一つWESSで得た大切なものがある。その大切さは学生時代よりも社会人になり感じるものが多くあった。WESSで経験したデイベ

トは、私にとって大切なものになった。当時、自分の信念に反する結論に理屈をつけて話すのは釈然としないという友人もいたが、自分と反対の考えを持つ相手の立場になって考えてみるのも、自分の考えを検証するチャンスととらえ違和感はなかった。

読者には釈迦に説法だが、デイベイトで学んだことは、現状分析から何が問題なのかを考え、解決するためのプランを立てる、プランの実効性を検証し、実行による新たな問題が出ないかを考える、実行による副作用が許容範囲なら実行する、というものを考える筋道だ。知識をたくさん増やすより、「考える力」をつけるため、日本の学校教育にデイベイトのような授業がもっとあつてよいのではないか。(昭和50年卒)

英語会人脈活用中です

柏澤 由紀一

小生は、松本市役所勤務で、英語会関係者とは、仕事上の関わりが薄い職種にあります。

が、一昨年のこと、上高地などの山岳観光に電気自動車を活用するため、発売予定の三菱のアイミーブを手寄せよとの命がくだりました。早速、三菱に問い合わせると既に予約で一杯との回答。その時、一年上の三宅さんが三菱に行っているという記憶が甦り、同じく一年上の平松さんを通じて連絡を取り、一台購入に成功。ついで、日産のリーフの担当がこれまた一年上の島田さんとわかり、松本を拠点に山岳観光にEVをという機運が一気に盛り上がり、現在では、主な観光地に急速充電器を設置し、タクシー会社での導入

も進んでいます。

この他にも同期の情熱の日の音楽祭の鈴木順子さんとは、クラシック(松本のサイトウ・キネン)の關係で、食品メーカーの川澄さんの縁で、信州の食材を使った食品開発の研究をするなど、四の八の人脈を活用した仕事に変わり、不思議な巡り合わせに感謝しています。(昭和54年卒)

高田馬場今様

そこは歩道だ！

松下 正寿

最近高田馬場で気付いた少し「苛立つ」現象。夜高田馬場駅へ向かうと、ビッグボックス前のロータリーにある歩道が、ほとんど通れない状態になっていることが多い。コンパ後と思われる学生がたむろし、占拠しているからだ。いや、私たちはやらなかったなどとは言わない。

駅前でできたエールは数知れず、という程だ(全く迷惑な話である)。しかし、そこには何らかの「アクティビティ」があった。

り、「馬鹿なエネルギーの発露」があった。さらにそれを歩道の真中でやつただろうか？

真中での光景には「アクティビティ」なるものが見られない。ただ歩道の真中に集まっている、としか言いようがないのである。これが「外向きのエネルギーを失い、自分に関わるもの以外は目に入らない」日本人の「劣化」傾向の象徴でないことを願う昨今である。

「それは単に年寄りの繰り返いだ。それも『劣化』ではないか」との声が聞こえるが、もちろん違う。これは「老人力」という(最近よくやくついできたらしい)。(昭和57年卒)

幹事長、尾上帰国する

大木 崇

日本に戻ってきました、との年賀状が尾上君より届いた。奥方の代筆による年始挨拶が久しく続いていただけに感無量であった。

我々の前後の代には懐かしい、大学近くの合宿用施設「セミナーハウスキムラ」のおばちゃんに「菊五郎」と呼ばれ、かわいがられていたのは、常に名前だけからでなく色白で端正な顔つきによるものであろう。

バブル絶頂期に現役であった我らの代。トレンドドラマの主人公のようなサラサラした髪型でmenにグリーティングをこなす彼は、スタイリッシュでスマートな五役像の演出を試みていたように思う。ずい分と先輩方からおしかりも受けたが、威厳では人を引張れない時代に入っていたのもまた事実だった。正に転換点だった。(そんな僕らでも最後は「学生注目！」に始まり紺碧の空の手拍子大合唱というオールドさも残していたが)年賀状の結びに彼らしくサラリと「ボチボチ声をかけて皆で集まれる機会を作れたらな」とあつた。やはり彼は僕たちのリーダーである。(平成4年卒)

稲門英語会ゴルフ会・近況

ゴルフ会幹事 吉川 通子(昭和48年卒)

ここ数年稲門英語会のゴルフの日は晴天に恵まれ、前日まで大雨でも当日朝には何とか晴れてくれ、春は満開の桜を愛でながら、そして秋には紺碧の空の下、ゴルフを通して先輩後輩の枠を越え親交を深めています。最近



スタート前に

参加者の中では、昭和31年卒の松橋会長が最年長となりましたが、昭和50年卒のメンバーまで毎回30~40名に参加して頂いています。ゴルフが好きな方、またゴルフの後の一杯が好きな方もどうぞご参加ください。女性の皆さま、また若い方のご参加もお待ちしています。同期の皆さまとお誘い合せて是非一度ゴルフ会を覗いてみてください。お問い合わせは英語会事務局または幹事まで。

2011年春の会は東日本大震災直後で中止となり、この秋一年ぶりに第33回ゴルフ会を開催致します。その様子はまた次号でお知らせ致します。

【第32回成績】

優勝：西口 勇(s39) 準優勝：長澤義夫(s40)
3位：井口敦雄(s48) ベストグロス：井口敦雄(s48) [77]

〈ゴルフ会幹事〉

毛利憲勝(s48) 井口敦雄(s48) 吉川通子(s48) 小倉雅博(s50)

2011年度 稲門英語会 年会費納入者のお名前

(2010年10月1日から2011年9月30日まで)

卒年	現金、郵便振替、銀行振込		および		銀行口座振替による納入者	
昭18年	増田 亮					
23年	伊東 克己					
24年	中瀬 正一					
25年	沢部昌次郎	保倉 進				
26年	岩崎 裕	北詰宗一郎	小安 總	富安 郁夫		
27年	石樽 和夫	三好 正也				
28年	犬丸 昭	松下 和夫				
29年	大矢 徹郎					
30年	入江 節子	大和田龍夫	小林 秀之			
31年	小野田淳子	川端 良治	白根 豪	鈴木 桂子	須藤宗一郎	鶴田 公江
	松橋 功	谷田 成雄				
32年	加藤 素夫	金光 平輝	塩見 健三	田原 経三	平野 久	望月 泰道
33年	桜田 正治	杉原 隆夫	高敏 春美	高橋 久夫	中田カヨ子	広沢 賢
	渡邊 五郎					
34年	有泉 一雪	大野 功	垣本由紀子	梶原 信亮	神山 幸一	金井婦美子
	土肥 英義	長房 正儀	中村 一栄	宮村聖一郎		
35年	石田 裕實	石田 光雄	金井 利雄	川岸 高真	小今井 寛	佐藤 明男
	平林 和雄	二保 和雄				
36年	天野 峯夫	伊東 照雄	内田 孝	尾谷 吉朗	川村 泰道	杉山 誠昭
	平野 亨	福田 浩人	山下 寛二			
37年	一丸 知子	遠藤 亮吉	岡崎 秀生	岡田 和秀	佐香 武彦	川上 矩生
	志賀 隆	清水 邦秋	新保 宗男	田島 勇	中村 節子	西原 恢
	古屋 輝彦	三留 勤	三船 忠良	百瀬 久仁	横田 安正	渡辺 芳子
38年	浅香 英男	有馬れい子	大倉 肇	大渡 肇	上田 幸弘	奥田 斐規
	河原 篤子	小作 昭子	坂井 馨	田崎 徹	田口 隆志	能正 豊
	浜本 尚子	広江 尚司	布施 絢子	古谷 俊爾	松村 央子	三船 昌子
39年	阿部 晟	安齊 渥子	安齊 洋一	五十嵐起世子	遠藤 斌	奥田美代子
	川上 介	川崎 規子	尚子	君和田正夫	小柴慧次郎	小林 公子
	佐々木邦男	佐藤 淳子	島田 昌明	関 直彦	大道 諒輔	高橋 雅敏
	長友 亮治	西口 勇	萩原 亜海			
40年	森田 宏次	吉田 忠	萬 肇			
	浅香 夏子	安部 駿一	内木 孝一	内田 徹	河輪 房修	北川 武
	瀬戸口祥二	大工原正徳	高島 康子	高梨 勝也	田中 久雄	北村 泰作
	古家美智子	房園 武男	持田五三夫	高梨 清次	松村 誠	深谷 易彦
41年	青木 正義	青木 亮	栗田 秀史	飯村 浩	伊藤 久夫	米田 義信
	小泉 陽子	古藤 黎子	小林 康男	坂本 宏之	四條 勉	小倉 宣孝
	中村 勝年	橋本 族興	福澤 節三	本多 一枝	山内 晴子	山内 正樹
42年	浅井 忠夫	伊東 節績	池内 早苗	稲垣 恒夫	浮貝 泰夫	大垣 嘉彦
	斉藤 保	斎藤美栄子	志岐 宏	白松 忠道	関根 次郎	高島 征二
	渡会 弘恭	前田 輝	丸山 浩	三輪 厚生	村越 秋男	篤夫
43年	井東雄志郎	川越 昌平	菊池 紀男	岸 栄洋	上月 孝	佐藤 忠
	高須 武男	永島 正樹	矢澤 洋一			
44年	秋葉富美子	秋山 京子	浅井 好弘	井上 武	大森 幸子	片山 郁夫
	坂 庸子	野田 宏一	久村 研	堀江 明	三寺 昭雄	宮崎 義治
45年	稲村 重信	大塚 良彦	岡田 良三	香山 正幹	紅松 喬	越村美智子
	柴原 孝光	藤野 隆	真崎 晃郎	真崎美那子		
46年	天沼真佐子	石川 幸男	植木 彰	大橋 恭一	岡田 俊雄	小林 洋一
	高橋 涉	宮本 直人				
47年	今来 康文	内山 秀敏	鏡 俊一	鏡 文子	国分 豊	齋藤 隆宗
	宿谷 直樹	白根 忠広	中西真佐裕	脇若 英治		
48年	井口 敦雄	鐘築 優	川俣 喜昭	戸倉 敏夫	橋本 良介	早川 良
	吉川 通子					
49年	大羽陽一郎	三好 良治				
50年	小倉 雅博	小松 寿	高田 一郎	角田千鶴子	時友 哲也	錦織 明
51年	梅田 和彦	栗原 成美	杉山 清	戸川 哲郎	中原 史裕	山田 御酒
52年	春名 和隆	福田 正彦	依田 博			
53年	菊池 桂子	坂口 肇	島田 哲夫	下島 雅幸	平松 昌雄	藤場 芳子
54年	池田 正彦	井潤 誠	大塚 正之	柏澤由紀一	亀岡 生長	小峯 修
	田中 順子	田中 優行	種村 隆久	廣田 崇行	布施 直人	吉永 昌生
55年	有田 玲子	小塩 恭市				
56年	石山 修	雲内 崇	大塚 博康	鴨田 成司	渡辺 信治	渡辺 純一
57年	熊本 秀子	嶋田 太郎	真銅竜日郎	真銅 初子	鈴木 純一	戸倉 幹夫
	山田 耕平					
58年	谷口 彰					
59年	川田 真	山野千鶴子				
61年	鯨井 勝					
62年	大槻 充子	岡 晃一	中島 秀幸	三藤 智之		
63年	遠藤 淳一	小林 浩樹				
平元	石川 隆信	古谷 明彦	笠 紀子			
3年	丸山 晃	渡辺 和彦				
4年	伊藤 誠二	大木 崇	田村 昌義			
5年	井上 敦子					
6年	葛岡友紀子	服部 美杉				
7年	木下 達哉	土谷 敦	山田 英明			
8年	北迫 恵子	澤 朋宏				
9年	佐藤 弘康					
10年	賀来 功生	後藤 大	中村 綾子			
13年	富士原透吾					
15年	澤村 健一					
16年	佐藤 祐介	佐藤 智子				
17年	廣野 一誠					
18年	野田賢太郎					
19年	田淵 純					
21年	須藤 勇紀					
22年	飯塚 洋平	伊崎 達朗	千歳 梨世	藤永 諒輔	目次 慧伍	中村 友紀
23年	青木 真人	岩波 祐樹	川瀬 諒	橋本 圭史		

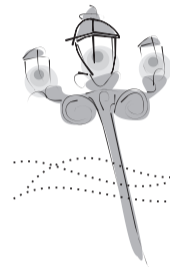
「気持ち悪い」会話

北迫 泰行

唐突ですが、我が家では客観的に見たらかなり「気持ち悪い」会話が繰り返されることしばしばです。それは、妻が一つの代の五役をやっていたKであり、二人とも英語会大好きなため、旅行に行くにしても「今回の旅行の意義は何か」を真剣に話し合った上で、「そのプランは意義から来ていないから却

下」とか、ニュースを見ながら「この話ってこの件にユニークネスはないね」とか。書いていなくても「気持ち悪い」とは言え、同期に久々に会って話しているうちに、そういう「気持ち悪い」単語が端々に出てくる方も多いのではないのでしょうか。さて、卒業後16年が経ちました。同期には、南極越冬隊員を始め、夢に向かって頑張っている者、外国で活躍している者、弁護士、そしてこの会報が出る頃はまだ新婚の者。皆、同じような環境

で学生生活を送ったのに、多種多様です。これこそが早稲田の神髄なのかと思うこともしばしばです。そんな同期とこれからの「気持ち悪い」会話をしていきたいと思えます。(平成7年卒)



事務局よりのお知らせ

《会費納入のお願い》

「稲門英語会」は皆様の会費によってすべてが運営されています。早大英語会補助、会員通信費など会の継続のための大切な資金です。2012年度会費の納入をお願いいたします。今年度会費をまだ納入されていない方も、ご入金をお願いいたします。年会費は五千円です。口座名義は「稲門英語会」、お手数ですが必ず卒業年次をお書きください。

- ◆郵便振替／郵便振替口座：No. 00100-4-9538 (同封の郵便振替用紙をご利用ください)
- ◆銀行振込／
 - ・三菱東京UFJ銀行 虎ノ門中央支店(店番332) 普通預金口座：No. 152412
 - ・みずほ銀行 虎ノ門支店(店番046) 普通預金口座：No. 2283024

◇口座自動引落をご利用の方で、金融機関名・支店名・口座番号が変更になった場合は変更届をご提出ください。また、自動引落の登録をご希望の方は事務局までご連絡ください。

《総会・忘年会のご案内》

今年度の総会・忘年会は12月1日(木)18時から開催します。皆様お誘い合わせのうえ、是非ご出席ください。

場所：レストラン「アラスカ」
Tel.03-3503-2722
〒100-0011 千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル